

年間第 33 主日 2019.11.17

終末のしるし

ルカ 21 章 5-19 節

ある人たちが、神殿が見事な石と奉納物で飾られていることを話していると、イエスは言われた。「あなたがたはこれらの物に見とれているが、一つの石も崩されずに他の石の上に残ることのない日がある。」そこで、彼らはイエスに尋ねた。「先生、では、そのことはいつ起こるのですか。また、そのことが起こるときには、どんな徴があるのですか。」イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがそれだ』とか、『時が近づいた』とか言うが、ついて行ってはならない。戦争とか暴動のことを聞いても、おびえてはならない。こういうことがまず起こるに決まっているが、世の終わりはすぐには来ないからである。」そして更に、言われた。「民は民に、国は国に敵対して立ち上がる。そして、大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい現象や著しい徴が天に現れる。しかし、これらのことがすべて起こる前に、人々はあなたがたに手を下して迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために王や総督の前に引っ張って行く。それはあなたがたにとって証しをする機会となる。だから、前もって弁明の準備をするまいと、心に決めなさい。どんな反対者でも、対抗も反論もできないような言葉と知恵を、わたしがあなたがたに授けるからである。あなたがたは親、兄弟、親族、友人にまで裏切られる。中には殺される者もいる。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。しかし、あなたがたの髪の毛の一本も決してなくなる。忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい。」

説教

福音書のなかの黙示録と呼ばれている箇所です。ルカ福音書だけでなくマタイ・マルコの福音書にも同じ内容が記録されています。「初めに言があっ

た」ではじまるヨハネ福音書は「イエスのなさったことは、このほかにも、まだたくさんある。わたしは思う。その一つ一つを書くなれば、世界もその書かれた書物を収めきれないであろう」と結ばれ、言（ことば=ロゴス）で初まる物語は言（ことば=ロゴス）で終わることができない、とヨハネは語ります。ヨハネ福音書は「黙示録」的表現を用いず明示的にロゴス中心にまとめています。共感福音書は「黙示録」の次にイエスの受難を記録して「せかいの終わり」の宗教的解決を記録して終わります。イエスさまは受難を受けるが復活する、イエスさまが生きている世界は終わるが、復活によってまた始まるという希望です。また福音書では具体的にこの世のおわりの時にどうすればいいのか、どのように希望をもつのかを教えてください。

わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。（中略）忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい。ルカ 21:17-19

今日の朗読の結びでは「忍耐」がキーワードです。

また、ルカ福音書 21 章の続く箇所ではこうも語っています。

そのとき、ユダヤにいる人々は山に逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ち退きなさい。田舎にいる人々は都に入ってはならない。ルカ 21:21

「逃げろ」がキーワードです。続いて、

はっきり言うておく。すべてのことが起こるまでは、この時代は決して滅びない。天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。ルカ 21:32-33

「言葉は滅びない」と断言しています。

言で始まり（ヨハネ 1:1）言葉は滅びない（ルカ 21:33）とあるように黙示録を＜言（ことば）=ロゴス＞中心に解決しています。限られた時間の中を生きるわたしたち人間一人ひとりにとって「ことばは滅びない」というイエスの言葉が光り輝く希望となりますように。
